平成２８年度セカンドライフ農活基礎講座を開催しました！

近年、定年退職や中途退職の後、本格的に農業経営を始めたいと希望される方が増加していることから、農業所得確保を目指して就農を希望する方等を対象として、農作物栽培等の基礎知識を習得するための「セカンドライフ農活基礎講座」を、平成２９年２月３日（金）、２月９日（木）、２月１７日（金）、２月２７日（月）に全４回開催しました。２２名の方から申込があり、延べ７２名が参加しました。

第一回目は、開講式として、受講生の方から自己紹介をしていただきました。市町村や年代も様々な方が集まりましたが、セカンドライフとして農業を始めたいという想いは共通でした。

また、卸売会社の支社長から、青果物の流通について講義していただき、レタスを 2,300 万円売上げている定年帰農者がいること、少量でも市場出荷が可能なこと、農作物を作るからには、人の口に入れて初めて農業となるなど励みになるお言葉をいただきました。

地方事務所農政課職員が、農産物の販売時の表示義務について講義しました。

第二回目は、普及センター職員が、野菜作りについて、野菜の特性と分類、佐久地域での栽培時期の目安、肥料・養分、種子・発芽、育苗など栽培に必要な基礎知識、佐久地域で取り組まれることが多い野菜の栽培管理を講義しました。

また、近年、被害の増えている鳥獣被害の防止対策について、シカ、イノシシ、カラスなどの生態や被害の特徴、農地周辺の緩衝帯整備、農地をエサ場にしない管理、防護柵による防除、狩猟法に基づく有害鳥獣駆除などを講義しました。

第三回目は、普及センター職員が、果樹栽培について、結果習性、自家和合性・自家不和合性、着果管理、生理落果、短果枝・中果枝・長果枝、樹形、剪定などの共通の基本的なこと、りんご、もも、プルーン、ブルーベリー毎の品種、生理生態、摘果、剪定などの管理作業を講義しました。

また、土づくり、農薬・肥料の使用方法について、病害虫発生の要因、原因となる生物、除草剤の種類、農薬のラベル表示、農薬取締法に基づく農薬の適正使用、総合的病害虫・雑草防除管理、土壌の物理性・化学性・生物性、肥料の種類､肥料計算､有機物施用による土づくり、土壌分析に基づく施肥などを講義しました。

第四回目は、普及センター職員が、作物栽培について、水稲では、徒長苗よりずんぐり苗を育苗すること、食味を良くするには､肥料を控えて､適期収穫することなど、大豆では、連作障害を防ぐため輪作すること、中耕培土の重要性など、そばでは、湿害に極めて弱い作物であること、適期は種・収穫などを講義しました。

また､農作業安全について､トラクター、耕うん機､刈払機､脚立等の事故防止対策、過去１０年間の農作業死亡事故数が全国ワースト１位であること、死亡事故の４０％以上は７０歳以上であること、農作業安全について周りの人に話して注意喚起の輪を広げることの重要性などを講義しました。